

<p>「祝福と希望の中で全国壮年大会が開催される」 第48回全国壮年大会報告</p> <p>「わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです。」(コリントー 3:9)</p> <p>暑さ厳しい中、8月23日(金)・24日(土)にかけて西南学院大学と西南学院バプテスト教会を会場に全国壮年大会が開催されました。主によって全国各地から愛する兄弟姉妹・プラスバンドメンバーが533名集められました。全国の諸教会・伝道所の皆さんの熱いお祈りと、福岡地方バプテスト連合の兄弟姉妹のご奉仕により大会が開催されましたことを心より感謝いたします。今回の大会を綴活する中で、いくつかをご紹介します。</p> <p><プログラムの件></p> <p>「教会形成を担う」「伝道者養成の業に参加する」以上の内容に沿うプログラムを心がけ、2日目の大会終了時間を午後3時までとしました。</p> <p><総会報告></p> <p>全国壮年大会連合役員会からの下記報告を参照ください。</p> <p><アンケートによる意見の件></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の献身とは何かを考える時を与えられました。今後祈りながら導かれていきたいと思っています。主題講演・パネルディスカッション・模範授業等でいろいろな気づきを与えられ、学びが出来たことを感謝しています。 <p>一つひとつのプログラムの素晴らしさ・食事での楽しい語らいのひととき・西南学院中学高等学校吹奏楽によるウエルカムコンサート壮年以外の参加者のためのプログラム等祝福と希望があふれる大会となりました。</p> <p>私たちが成長し、前進し、さらに豊かな実を結びましょう。第48回全国壮年大会実行委員長 小林鐵志(野方教会)</p>

2013年度 全国壮年大会連合総会 議案審議結果【報告】

	議案(審議詳細は10月発行の大会報告書を参照下さい)	審議結果
議案1	2012年度全国壮年大会連合活動報告の件	承認
議案2	2012年度全国壮年大会連合奨学金委員会活動報告の件	承認
議案3	2012年度全国壮年大会連合会計(一般会計、奨学金会計)決算報告、監査報告の件	承認
議案4	2014年度神学校献金(神学生奨学金献金)目標額の件	承認
議案5	連合立等神学校奨学金制度に関する業務受託の件	承認
議案6	2013-2014年度全国壮年大会連合活動計画書の件	承認
議案7	2013-2014年度全国壮年大会連合奨学金委員会活動計画書の件	承認
議案8	2013年度全国壮年大会連合一般会計修正予算案及び2014年度同一般会計予算案の件	承認
議案9	2013年度全国壮年大会連合奨学金会計修正予算案及び2014年度同奨学金会計予算案の件	承認
議案10	2014-2015年度全国壮年大会連合役員選挙に関する件	承認
議案11	全国壮年大会連合規約改正に関する件	承認
議案12	全国壮年大会連合規約細則改正に関する件	承認
議案13	全国壮年大会連合事務局職員規程改正に関する件	承認
議案14	2014年度総会議長の件	承認
議案15	2016年度全国壮年大会開催担当地方連合の件	取り下げ

会議報告

<p>◇ 第2回役員会</p> <p>開催日：9月14日(土)(於連盟会議室) 出席者：役員・監査、事務局員</p> <p><審議内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 8月の全国大会・総会の総括を行った。特に活動計画について意見をいただいた項目を確認し、まず可能なレベルで段階的に実現していくこととした。 ● 今後の神学校献金推進を含む壮年大会連合活動について意見を集約した。特に神学校週間におけるアピールについては工夫が必要との判断により、来年度は企画段階から神学校献金推進委員の参与を得て展開することとした。 ● 壮年大会連合規約、規約細則、事務局職員規程改正について一部文言修正を含め承認されたので、規則改定委員の成文確認を経て全国壮年大会連合HPにて公開する。 ● 総会議案5にて連合立等神学校への奨学金送金と管理業務の受託が承認されたことを受け、8月に連合立等神学校への送金が完了した事を確認した。

日本バプテスト連盟全国壮年大会連合 〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4
 事務局執務時間：月、水、金 10:00～16:00
 ☎・fax：048-886-7533 http://www.sonen.net sonen@bapren.jp
 郵便振替 00150-7-669605 「日本バプテスト連盟 全国壮年大会連合事務局」

<p>全国壮年会連合</p> <p>ニュース </p>	<p>2013年10月25日</p> <p>No.78</p> <p>日本バプテスト連盟全国壮年大会連合 発行人 大城戸一彦 編集人 井伊 肇 Topics password→sorengo</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



「神学校。ああ、恵みの時。」

日本バプテスト連盟常務理事 吉高 叶

私が学んだ神学校には、実に様々な献身の動機を抱えた人間がうごめいていました。イエス・キリストとの劇的な体験を通して献身を決意した人たちがいました。社会人として全く頭打ちに合い、会社にも行けず酒におぼれている中で、聖書に触れ、キリストに出会い、教会生活を始めることで、だんだんライフサイクルが変わり、酒からも離されていった。そのことが嬉しくて献身したという人がいました。いわゆる「不良少年」で暴走族あがりの男もいました。レコードを2枚出した演歌歌手くすれもいました。金をつぎ込んでレコードを制作し、どさまわりを重ねて、だんだんレコード会社からも相手にされなくなり、捨てられてボロボロになった経緯を持つ男もおりました。このように、自分自身が七転八倒しながらも、イエスによって癒されて、受け入れられ、変えられ、感謝と喜びとが献身の決意となっている人たちがいます。

大学在学中に出会った一人の牧師の生き様を通して、伝道者として生きていきたいと思うようになったという学生もいました。学生の時に韓国青年交流のプログラムに出て、韓国の若いクリスチャンたちの情熱に触れて自分も日本で信仰を燃やして生きていきたいと思ったという人もいました。ある牧師の息子の場合、自分は不真面目な教会生活をずっと送ってきたのだが、ある重鎮の教会員女性で、牧師一家が何かと世話になっていた方が、ガンで亡くなる時に自分を病床に呼び寄せ、「あなた神学校に行きなさい。牧師になってちょうだい」と泣きながら遺言されたという人もいました。このように、人との出会いに強く影響を受け、また促されて神学校に来ていた人たちがいます。<中略：ホームページから完全文書をお読みください>

こうした一人一人、色んな出会いと色んな気持ちで集まって来た者たちが、一つとこで共に学んでいる、それが神学校です。そこにはかたちはどうであれ、「献身」という共通の経緯があり、そして「召命」というおごそかなテーマがあるのです。そして何より、それら一人一人の背景に「教会」があり、送り出した人々の涙ぐましい祈りがあるのです。

ところで、神学校での学びは、単なる知識や技術を習得することに中心のあるような、一般論や他人事ですませられる学問ではありません。どの科目を受講しても、自分の信仰と主体性が問われるのです。それは重い授業の連続です。全てに問いかけられてしまう、そんな内容ですから。

このように、神学生には誰にも「献身」という経緯があり、「召命」というテーマがあり、また信仰を問われるという「試練」があります。学びながら行き詰まり、恐ろしくなることが度々あります。後戻りしたくなることがあります。神学し始めると、自分の信仰にメスを入れられ、検討を迫られていくことになるからです。情熱だけで入学しても、「あなたのその信仰は言葉にすればどういうことになるのか」「またそれは過分にあなたの思いこみの強さの現れなのではないのか」と問われるし、また、「あなたは自分の充実や自己実現のために牧師になろうとしているのか、教会とキリストに仕えようとしているのか」と、冷や水をかけられるのです。ガーンと頭を殴られた感じになります。「信仰」は試され、揺さぶられ、ある意味では「信仰の危機」に直面するのです。そうした試練を受けながら、さらに自分の信仰を見出し、定めていく作業が神学する生活です。また、神学するということは、自分の貧しさを思い知らされていくという壁に必ずぶつかります。果たして伝道者として自分からさわるのかどうか、自分はなれるのか、能力的にも人間としても「ぜんぜんだめだ」と不安に襲われることがあります。卒業と赴任を控えた神学生たちの全員が、その恐ろしさにもぶるぶる震える経験を持っているはずで。

そして、多くの神学生たちは、特に西南神学部のような場合、それまでの仕事を辞めて入学している人が多いですから、経済的不確実性という問題を抱えています。3～5年間の学びを完遂することができるための貯蓄を蓄えて献身しましたという準備万端の人はいませんから、みんな飛び込んで来ているわけです。差し上げることのできる奨学金は、贅沢などできる額ではもちろんありませんし、少しはアルバイトしないと苦しいかなという額ですから。けれども母教会から祈られ、壮年大会から奨学金を受け、毎日毎日を過不足なく「1オメルで養われる」という体験を通して、そこでこそ大切な「献身者の経済観念」を学ぶのだらうと思います。経済的な不確実性が、何かを培っていくのです。

一人の人が献身し、神学校の学びをやり終えて現場にでていくのには、こうした様々な厳しさがありますが、この全ては、「恵みの時」です。そして、ここに学んだ者は知るので。「神のゆるしと導き」「謙遜な信仰姿勢」「人々の祈りと支援」なしに、成し遂げられないのだ、と。

神学校で、一人の人間に起こっていること。それは、なかなか凄く出来事です。それは、いろいろな力が内から外から働いて成立しています。伝道者養成を祈り、神学生たちを奨学金をもって支えるという運動も、まぎれもなく、それを成立させている力の一つです。大きな力の一つです。壮年大会連合の祈りと運動、確実に、神学生たちを包囲し、応援し、励まし、共に歩んでいる業なのです。

『主に捕らえられながら』



西南学院大学神学部4年 河端真理子（推薦教会：福岡新生キリスト教会）
 主の御名を賛美致します。
 いつも私たち神学生を覚えて、祈り支えて下さり心から感謝致します。神学校での学びと献身生活の日々は、早いもので1年半が過ぎようとしています。今日までの歩みを導いて下さった主に、そして背後から祈って下さっている多くの方々へ感謝致します。
 普通のOLだった私が、3年半前に神様と出会う経験をしました。その後しばらくして、フィリピの信徒への手紙3章12節の御言葉が与えられました。

『わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。』

パウロは、12節からの箇所において、神様が与えて下さった恵みは、失うことを恐れて後生大切に抱え込んでいるべきものではなく、生ける神の御手から、常に新たに受け取りなおさなければならぬものである、と言っています。

約半年前、倒れては起き倒れては起きの繰り返しの毎日で、心がくるくると変わる自分が情けなくて泣いていた時に、ジョージ・マセソンの「主よわれをばとらえたまえ」の2番が心の中に流れてきました。

わがところは さだかならず 吹く風のごとく たえずかわる
 主よ、御手もて ひかせたまえ さらば直きみち 心みゆくをえん

その時、3・4番の歌詞がうろ覚えだったため、図書館に行って賛美歌を見てみると、この賛美の聖書箇所がフィリピ3章12節だということが分かりました。「私は主の御手にちゃんと捕らえられている！」その時の驚きと慰めを、今でも忘れることができません。ジョージ・マセソン牧師は、1842年に生まれ若い頃に失明し、その後4年間神学の学びをして牧師となりました。人生における逆境にあって、かえって深い信仰に生き、多くの賛美歌と深い慰めを伝える人になったといわれています。彼がよく祈った祈りの1つは「不平を言いたくなるような嵐を過ぎ去らせてください」というのではなく、今、この嵐の中で、絶望に落ち込むのが当たり前だと思ふ現実の中で、聖なる喜び、神を賛美する歌声が生まれますように」であったといえます。

このように小さな出来事ですが、時・出来事・御言葉が重なって、私の生のただ中に起こる。このようなことが毎月のように起こってくるのですから、救いに入れられた恵みを感じずにはいられません。「救い」と「完成」の狭間にあって、『前のものに全身を向けつつ』（13節）『目標を目指してひたすら走る』（14節）日々を生涯送っていきながら、マセソン牧師のような信仰者とさせられつつ、この喜びを1人でも多くの人に伝える者となっていきたいと思います。

関西地方教会連合壮年会の紹介



関西地方教会連合壮年会長 北村慎二（宝塚バプテスト教会員）

関西地方連合は36の教会・伝道所からなり、400名強の壮年が在籍していますが、壮年会費納入会員は80名弱に留まっているのが現状です。

壮年会の活動としては、「神学校週間を覚える集会の開催」、「バプテストホーム・ワークキャンプ」（京都のバプテストホームでの草刈り等の奉仕）、「総会ならびに講演会」の3つを主な活動としております。

今年の神学校週間を覚える集会では、新しく東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校で学ぶ神学生にも奨学金が与えられることになることを機に、東京バプテスト神学校を卒業され、昨年神戸伊川キリスト教会の牧師となられました鮫島泰子牧師に講演をお願いしました。神学校の紹介と証し、メッセージと一人で三役をお引き受けて下さり、壮年の力の足りぬところを大いに補っていただいた次第です。

関西地方教会連合壮年会では神学校の通信制で学ぶことがミニブームとなっております。「60の手習い」ではありませんが、「ボケ防止にこれ以上の特效薬はない」と悪戦苦闘しながら取り組んでおります。「献身」という重たいものでなくても、「気軽に」学ぶこともまたあっていいのではないかと思います。そしてこのことが、神学校や神学生の方々を盛り立てることに繋がるのではないかと考えております。また、神学校という大それたものではなくても、聖書について学ぶ寺子屋的なものを生み出して行くことができればと考えております。

さて、神学校献金と言えば、神学校献金推進委員の酒井俊一兄のことを触れずにはおれません。酒井兄は永年に亘り神学校献金推進委員をされて来られ、神学校献金をアピールするだけでなく、ドイツ菓子の「シュトーレン」を焼いては様々な集会等で販売し、販売代金を神学校献金として献金されてきました。今やシュトーレンを見ると神学校のことや神学生のことを思い出さずにはおれません。

パウロはフィリピの信徒への手紙で「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。」と語っています。「主において」喜べ、「常に」喜べ、と語っています。壮年が教会においても、家庭においても、職場においても、地域社会においても、もっともっと笑顔を見せ、喜んで働き、仕えるようになれば、社会が変わるのではないのでしょうか。そのような期待をもって、関西地方連合壮年会は活動を展開したいと考えております。

「私が神様からいただいた賜物」～笑顔とハーモニカ



蒲地正明（大井バプテスト教会）

独立して一緒に歌うサービスを始めることにしましたが、ハーモニカ一本だけの伴奏では音も小さく、息苦しく、技術も不足しています。そこでCDをカセットデッキの大きな音量で掛ければ、オーケストラの伴奏入りで、歌も大いに盛り上がるだろうと考えました。CDも往年の有名歌手の歌唱であれば懐かしく、それに併せて歌えば歌い易く、ハーモニカも吹けばレトロ調で喜ばれ、時には自分も一緒に歌えるので、そのやり方にしました。そして歌詞をパソコンの大きな字で打ち、印刷してお渡しすれば見ながら歌えると思ったのです。一人では無理なので早速歌好きな友人達をスタッフにして、活動の準備を始めました。まずハーモニカを全曲のkeyに合わせるべく、予めkeyを聞き取って置きます。（17本を用意）、CDも順次揃え、今では122枚、1472曲になりました。デッキも使い勝手のよいものを新たに購入しました。1回の選曲は15曲前後、女性と男性の歌手も偏らないようにし、所要の1時間内に終わるように時間を計って曲を選びます。歌い続けでは疲れるので、合間に時代背景とか歌手に纏わるエピソード等をディスクジョッキー流に面白可笑しく語ります。主なる活動の場はディサービス部門です。教会員の介護士の方や施設からの依頼を受けて、毎月3ヶ所の施設に通っています。長い所はもう14年にもなります。お客様は30～40名、時には50名を超えます。殆どの方が車椅子なので、デッキを前面に置いてマイクを握り、間を縫うように歩き、吹いたり歌ったりします。今はあまり歌われない往年の童謡・唱歌・歌謡曲は戦前、戦中から戦後と、昭和の時代のものに限っています。演歌は合唱に不向きですし、軍歌はやりません。歌っている時に、懐かしさに感極まって泣く方が居られます。また大きな声を出して歌うと肺活量が増え血行が盛んになり、歌詞を見ながら歌うことは知的な作業であり、良い詩と良い曲は感情を豊かにして、身体に良い事ばかりです。或る時、かなり高齢のご婦人から皆さんでお茶でもと、おひねりを頂きました。開けたところ何と大枚1万円が包んであるではないですか。勿論施設の責任者と相談して有難くメンバーの御茶代にし、それなりの物を丁寧に返礼致しました。それ程喜んで頂けたとすれば大変嬉しいことです。ほんのチョッピリ、スター気分を味わいながら、少しでも長く続けて行けたらと思っています。賜物に感謝！

岐阜バプテスト教会壮年会活動の紹介～「第48回全国壮年会」に参加して

前回までの航空機に代わって、いつの間にか新幹線の利用が便利になり、車窓の景色を楽しみながら出かけました。毎年、岐阜教会は全国壮年会に出席する人数も多く、今年も7名の参加でした。うち2名は初参加で若返りがはかられています。「毎年なぜそんなに多くの方が参加するのですかと」尋ねられますが、プログラムの内容、主題講演、議題なども話題になりますが、1年に1回くらい遠出をして、全国壮年会の動きを共有し交わりを深め、地元の教会員と一緒に礼拝に出席し、親睦を深めたいとの思いを強く持っています。

・今回は西南学院大学をメイン会場に、神学部の先生方による模擬授業は此处でしか実現しないオールキャストとして特筆されるものではないでしょうか。大学チャペル、教室、食堂と落ち着いた雰囲気が進められ西南学院大学の全面的な応援に感謝いたします。また昨年新会堂となった西南学院バプテスト教会は朝の祈禱会にふさわしい場所でした。



・主題講演奥田知志牧師の講演タイトル「自分の十字架を背負ってイエスに従う一困窮者支援の現場から絆の意味を問う」（聖書：マルコによる福音書8章34節）。講演内容に深い感動もってお聞きました。絆の広がりのすばらしさ、支えられる側がいつしか復興により力キ養殖の生産者になり、その力キ缶づめ工場の従業員は日頃路上で出会っている若者が担ってゆく。「相互多重型支援」消費行動をもって富を再分配していく仕組みが必要との視点。いつまでたっても助けられている。いつまでたっても助けている・・・これでは長続きしません。本来、絆とは相互性があるもので、おたがいさまというのが絆で、そこに脱皮しなければならない。

・絆は傷を含むということは、イエス・キリストにおいて明確に示された絆の意味です。イエス・キリストは私たちと絆を結ぶために、自らを十字架において傷つけられたわけですから。わたしたちのために傷を引き受けられた。その打たれた傷によって私たちは癒されました。これこそキリスト教信仰の神髄です。私も岐阜市で野宿生活者支援活動に参加していますが大きな励ましをいただきました。

・パネルディスカッション「献身者が育つ、教会が育つ」パネラーとその発題はよかったが時間が足りなかった。壮年は自己主張はするか話を聞くのがへた。学ぶ事もへた。献身者が与えられる→教会が変わる→私達が変わる。初期バプテストの人々は「問い」を大切にしていた、聖書を読んで変わらなければ、後継者を真剣に祈って育てる。

・壮年会に新しい人に参加させて活性化をはかる。
 ・大会終了後有志でもう一泊し、福岡西部バプテスト教会壮年の皆さんとの交流会に参加し、翌日は教会で礼拝を共にいたしました。

・来年は広島での開催、帰りの新幹線で広島市街を眺めながら「是非来たいですね」と話して帰ってきました。

岐阜バプテスト教会 澤田一馬

